健康投資推進協議会 第 8 回 HSD ワーキンググループ 議事録

開催日時：2026 年 1 月 16 日(金)10：00～11:00
開催場所：zoom ミーティング
参 加 者：（敬称略）豊田、岡部、村松、高野、鷲尾、佐藤（リコージャパン）、高木（リコージャパン）、髙木（高木工業所）、濱元、辻尾、津川、鈴木、菅原

主なポイント

- 2026 年 2 月 12 日に開催予定の健康投資シンポジウムの準備について議論
- シンポジウムのテーマは「中小企業が行う攻めの健康投資」に決定
- パネルディスカッションでは経営者視点での健康投資の実践事例を中心に展開

議論されたトピック

１．シンポジウムのテーマと構成

シンポジウムのテーマと全体構成について議論が行われた。

- **詳細**
  - 豊田： 前回は地域との連携を絡めた案を出したが、中小企業が主役となって健康投資を行うことが重要との意見があった
  - 豊田： 高市政権が「攻めの予防医療」というテーマを掲げていることも踏まえ、テーマを「中小企業が行う攻めの健康投資」とした
  - 岡部： 経営者視点を打ち出すことが重要で、地方創生や地域活性化よりも経営者と担当者が一緒にいる強みを活かすべき
  - 鈴木：シンポジウムのターゲットを明確にすべき。中小企業が健康投資を行いたいと思えるような内容にすることが重要
- **結論**
  - シンポジウムのタイトルは「中小企業が行う攻めの健康投資」に決定
  - 90 分の構成で、第一部は古井先生による基調講演、第二部はパネルディスカッションを実施
  - 開催日時は 2026 年 2 月 12 日 14:00-15:30、オンラインのみの開催

２．パネルディスカッションの内容

パネルディスカッションの内容と登壇者について議論された。

- **詳細**
  - 豊田： ファシリテーターは村松先生、パネリストはみずほ銀行の末吉氏、高木工業の高木氏、大阪教育研究所の辻尾氏を予定
  - 村松： 高木工業所と大阪教育研究所がロジックツリーを作成した経験や工夫したポイントを共有すべき
  - 髙木（高木工業所）：担当者の視点も含めた方が聴衆に伝わりやすい
  - 辻尾： シンポジウムのターゲット層を意識して、参加者が持ち帰れる内容にすべき

    - 鷲尾： 健康経営を進める企業を増やすことが目的なら、原点に戻って「できるところから始める」という視点が重要
- **結論**
    - パネルディスカッションのテーマ案：「将来に向けて中小企業が健康投資をどう生かすべきか」
    - 経営者視点と担当者視点の両方を含めた内容にする
    - 難しすぎる内容ではなく、企業が実践しやすい内容を重視する

企業の健康投資の実践事例

参加企業の健康投資の実践事例について共有された。

- **詳細**
    - 髙木（高木工業所）：ロジックツリー作成から 1 年経ち、健康推進チームを作って活動。大塚製薬と連携し、社員の健康意識向上のための仕掛けを実施
    - 辻尾： ロジックツリーに記載した項目はほとんど達成できているが、まだ少人数でしか共有できていない
    - 濱元： 社長が出す様々な施策が社員にどう受け止められているかを草の根の対話を通じて確認している
    - 津川： 企業規模によって健康に対する考え方が変わる。最近は精神的な健康の重要性が高まっている
- **結論**
    - 企業によって健康投資の取り組み方や課題が異なる
    - 小さな成果を積み重ねていくことが重要
    - 経営者の視点と担当者の視点の両方を含めた事例紹介が効果的

アクションアイテム

- 事務局
    - ☐ 古井先生と「攻めの健康投資」の定義について調整する
    - ☐ パネルディスカッションの詳細な内容について別途打ち合わせの機会を設ける
    - ☐ シンポジウム全体の流れを再検討し、テーマをより明確にする
    - ☐ 会場設営の詳細について参加者に案内する
- 高木工業所
    - ☐ ロジックツリーをブラッシュアップする
    - ☐ パネルディスカッションでの発表内容を準備する
- 大阪教育研究所
    - ☐ ロジックツリー作成の意図や実践内容についての発表を準備する
    - ☐ 辻尾氏の当日参加について調整する
- 全メンバー
    - ☐ シンポジウム前の最終ワーキンググループに参加する